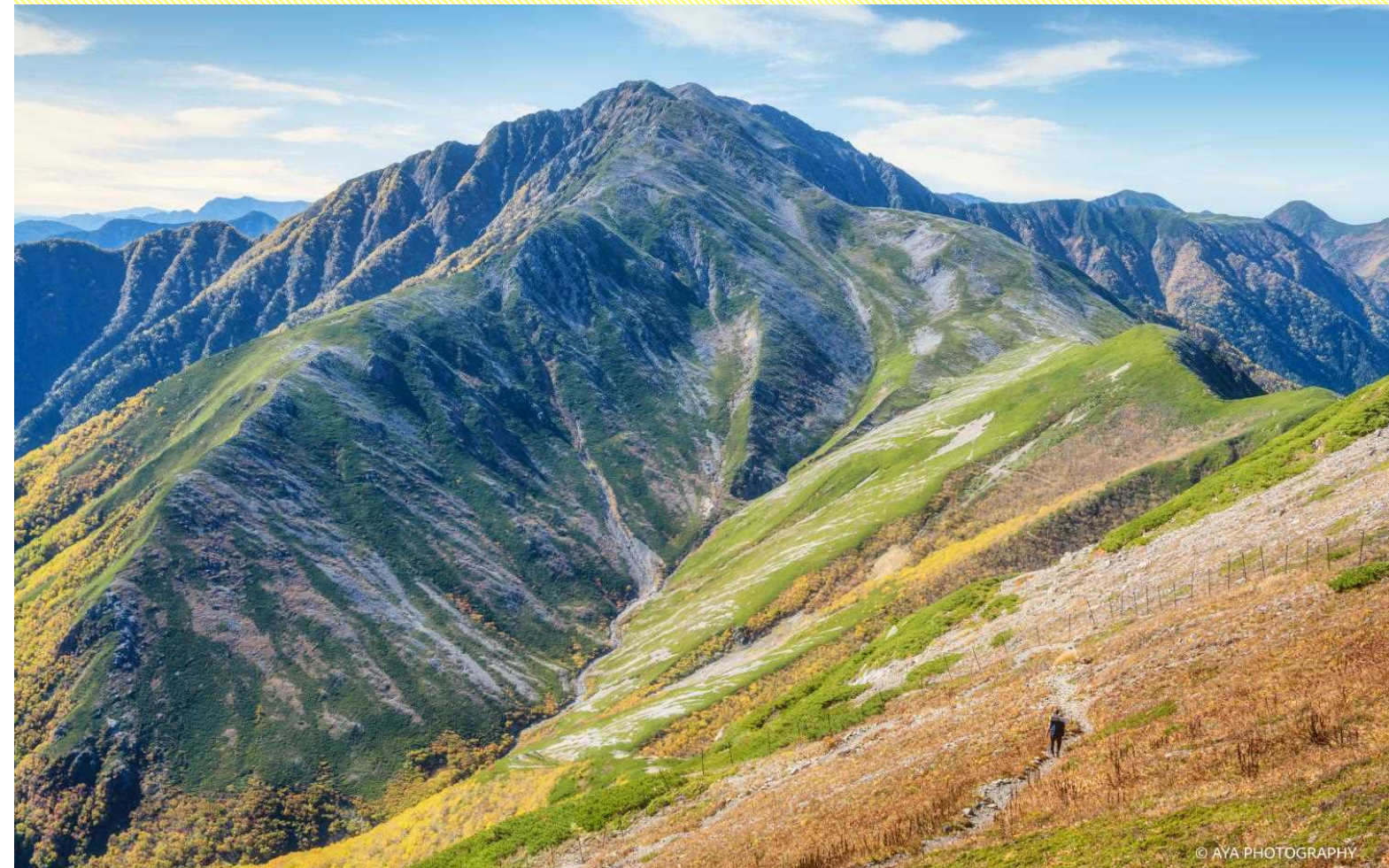


創刊号 令和4年5月

# みんなの南アルプス

発行 南アルプスを未来につなぐ会 電話 054-221-3498 (事務局)



© AYA PHOTOGRAPHY

撮影 gakujo\_aya 氏  
(南アルプスを未来につなぐ会 理事)

## 創刊にあたり

南アルプスは、「世界の宝」としてユネスコエコパークに登録されています。稜線部を中心とした地点には、氷河期からの遺存種など、守るべき貴重な動植物が手付かずの状態に残っており、それらの自然環境を保全しつつ、経済的・社会的に持続可能な発展を目指すことが求められています。

「南アルプスを未来につなぐ会」は、南アルプスの美しい自然環境を広く世に知っていただき、保全と利活用の調和を図りながら、より良い形で未来につないでいくことを目的に、令和3年7月に設立されました。

同時に、本会の活動を応援していただくサポーター（会員）を募集したところ、500を超える個人・団体の皆様にご登録をいただいております。サポーターの皆様には、南アルプスの魅力的な情報を配信しており、大変好評をいただいております。また、本会のSNSアカウントも開設し、南アルプスの美しさを動画や画像で配信しております。

この会報でも、南アルプスに関する旬な情報や、本会の活動について皆様にお届けしてまいります。

### ～南アルプスを未来につなぐ会発足に向けて～

南アルプスを未来につなぐ会 会長 山極壽一



日本の脊梁山脈の高峰をいくつも擁する南アルプスは、北アルプスや中央アルプスとともに「神々の座」として昔から人々に畏敬の念と生きる力を与えてきました。その恩恵を未来の世代に残し、新しい時代にふさわしい利用法を考えようというのが本会の目的です。

これまで私はアフリカ大陸中央部にそびえるヴィルンガ火山群やカフジ山でゴリラの調査をしてきました。これらの山々は標高3000～4000メートル級でちょうど南アルプスに匹敵します。南アルプスが静岡、山梨、長野の三県にまたがるように、ヴィルンガ火山群も三国に属し、国境を超えて人々が利用し合っている場所です。どの国の人々もこれらの高峰とゴリラを愛し、世界から観光客がやってきて交流できることを楽しみにしています。それは、ゴリラとともに地元の人々が守り育ててきた自然や文化を、誇りを持って世界に示すことができるからです。

南アルプスにも貴重な高山植物やライチョウを始めとする希少な鳥や動物が生息しています。しかし、近年の地球温暖化や自然災害によって環境が悪化し、絶滅の危機に瀕している種が増加しています。とくに、最近ニホンジカが急増して高山帯にまで侵入するようになり、固有種である貴重な植物が食べ荒らされている現状が憂慮されます。一刻も早く手を打たなければ、未来の世代に残すべき美しい自然が次々に失われてしまうでしょう。

こういった事態を打開するにはいくつかの方策が必要となります。まず、南アルプスの現状を精査し、その未来可能性を分析したうえで適切な保全対策を立てることです。それにはその調査を担う研究者や、対策を立てる自治体の協力が不可欠です。本会はそれを広く呼びかけ、県内外の多くの方々に参加していただこうと思っています。また、同時に南アルプスの魅力を再認識し、それを広く伝えていくための取り組みが重要となります。南アルプスはどれもアクセスが難しく、これまで登山客も限られてきました。これらのルートを整備し、それぞれの山の魅力を適切に解説するガイドを養成する必要があります。私はアフリカでゴリラの調査を地元の人々と実施するとともに、エコツーリズムのガイド養成にも携わってきました。ガイドには自然の知識とともに、地元の文化をよく理解し、その魅力をわかりやすく伝える技能が求められます。さらに、これからは自然と文化の調和を図るべく自然を管理・利用していく未来設計技術も必要となるでしょう。それは地場産業の育成に大いに役立つはずですが、こういった技能や技術を地元の学校や大学、自治体やNGOで養成していくことが期待されるのです。

そして、そういった試みを国内外に広く発信していかなければなりません。この会報誌はその試みの一つです。ぜひ、多くの方に読んでいただき、私たちの活動に関心を持っていただきたいと思います。

# 未来につなぐ取組①

～ 設立記念イベントの開催（動画配信） ～

南アルプスを未来につなぐ会の設立を記念したイベントについては、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、予定していたプログラムを個別に収録し、YouTubeでお届けしています。

収録内容は、山極壽一会長による基調講演や、本会理事と現役高校生によるパネルディスカッション、高校生が取り組んだ南アルプス高山植物種子保存プロジェクトの成果発表、さらに関係団体による南アルプスにおける取組事例の発表など盛りだくさんの内容となっております。

プログラムごとに動画を分けておりますので、お好きなプログラムを自由に御覧いただけます。

各動画は、YouTubeチャンネル『みんなの南アルプス』（下記QRコード）で視聴が可能です。

## < 設立記念イベント プログラム >

- 1 開催挨拶  
静岡県知事 川勝平太
- 2 基調講演  
「世界遺産の山と自然と人々」  
南アルプスを未来につなぐ会 会長 山極壽一
- 3 パネルディスカッション  
「南アルプスを未来につなぐためには」  
進行 山極壽一  
パネリスト 佐藤洋一郎（南アルプスを未来につなぐ会 副会長）  
山崎宏（同会 理事）  
松嶋彩（同会 理事）  
望月康弘（磐田農業高等学校 学校長）  
齋藤慎（磐田農業高等学校）  
三浦千穂（静岡農業高等学校）  
岩崎百華（静岡農業高等学校）
- 4 南アルプス高山植物種子保存プロジェクト 成果発表  
（静岡県内6高校の生徒による発表）  
プロジェクトの詳細は次ページを御覧ください。
- 5 関係団体による取組事例発表
  - ・南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク
  - ・静岡市
  - ・川根本町



副会長



YouTubeチャンネル  
みんなの南アルプス

## 未来につなぐ取組②

### ～ 南アルプス高山植物種子保存プロジェクト ～

南アルプスの高山植物の中には、氷河期からの遺存種や、固有種、分布の南限種など、貴重な種が数多く生息しています。

それらの高山植物は、地球温暖化や盗掘、ニホンジカの食害の影響を受けており、自らの繁殖力だけでは間に合わず、近い将来絶滅してしまう可能性があります。

そこで静岡県では、令和2年度から『南アルプス高山植物種子保存プロジェクト』を立ち上げました。

このプロジェクトでは、県内6つの高校を『ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナー』として委嘱し、絶滅危惧種の種子を各校で人工的に増やし、生息域外での遺伝資源の保全につなげる全国で初めての取り組みを行っています。

各校の生徒は、専門家のアドバイスを受けながら栽培に挑戦しています。

また、この取組への理解を深めてもらうため、令和3年8月に4校12名の生徒が南アルプスの千枚岳（標高2,880m）に登り、自生地での高山植物の観察や駒鳥池での微小生物の採取を行ったほか、南アルプスの地質的な成り立ちについても現地で学びました。

令和4年度もプロジェクトを継続し、発芽させた高山植物から種子を採取することを目指します。

#### <プロジェクト参加校>

- ・田方農業高等学校（函南町）
- ・富岳館高等学校（富士宮市）
- ・静岡農業高等学校（静岡市）
- ・藤枝北高等学校（藤枝市）
- ・磐田農業高等学校（磐田市）
- ・浜松湖北高等学校（浜松市）



種子増殖に挑戦する高校生



千枚岳頂上を目指して



微小生物の採取も実施

## オススメ動画

～ 日本初？『高山植物ドローン大捜索』 ～



食害を逃れたお花畑



ドローン調査の様子

南アルプスは南北50km以上に連なる日本を代表する山岳地帯であり、固有種や分布の南限種、絶滅危惧種などが数多く生息・生育しています。しかし、南アルプスは急峻でアプローチも長いことから、これまで調査の多くは登山道の周辺に限られていました。そこで、これまで調査されていない個所を対象に、南アルプスで初めてとなるドローン調査を計画しました。

最近のドローンは静止画で2,000万画素以上の撮影が可能で、加えて4K動画も撮影可能な機体が多くなっています。この機体を用いて、南アルプスの荒川岳周辺で7月と9月の2回、ドローン調査を実施しました。

その結果、絶滅危惧ⅠB類のキタダケヨモギ（キク科）や絶滅危惧Ⅱ類のウラジロキンバイ（バラ科）などを含む絶滅危惧種9種、4,500株以上を発見しました。更に急峻な崖とハイマツに囲まれた個所にニホンジカの食害を受けていないお花畑を新たに発見しました。

ドローン調査は、①調査時の踏み荒らし防止、②調査員の安全性、③調査時間の短縮、④コスト縮減など多くのメリットがあります。得られた成果はレッドリストの改定や、有識者とも共有し学術の発展にも活用されます。

今後、静岡県では南アルプスのほかの場所でも調査を続け、貴重な高山植物や天空のお花畑の発見と保全に努めてまいります。

※ドローンは、必要な許認可を取得した上で飛行しています。



キタダケヨモギとウラジロキンバイ


YouTube 日本初？『高山植物ドローン大捜索』はこちら→



# 南アルプスのいきもの

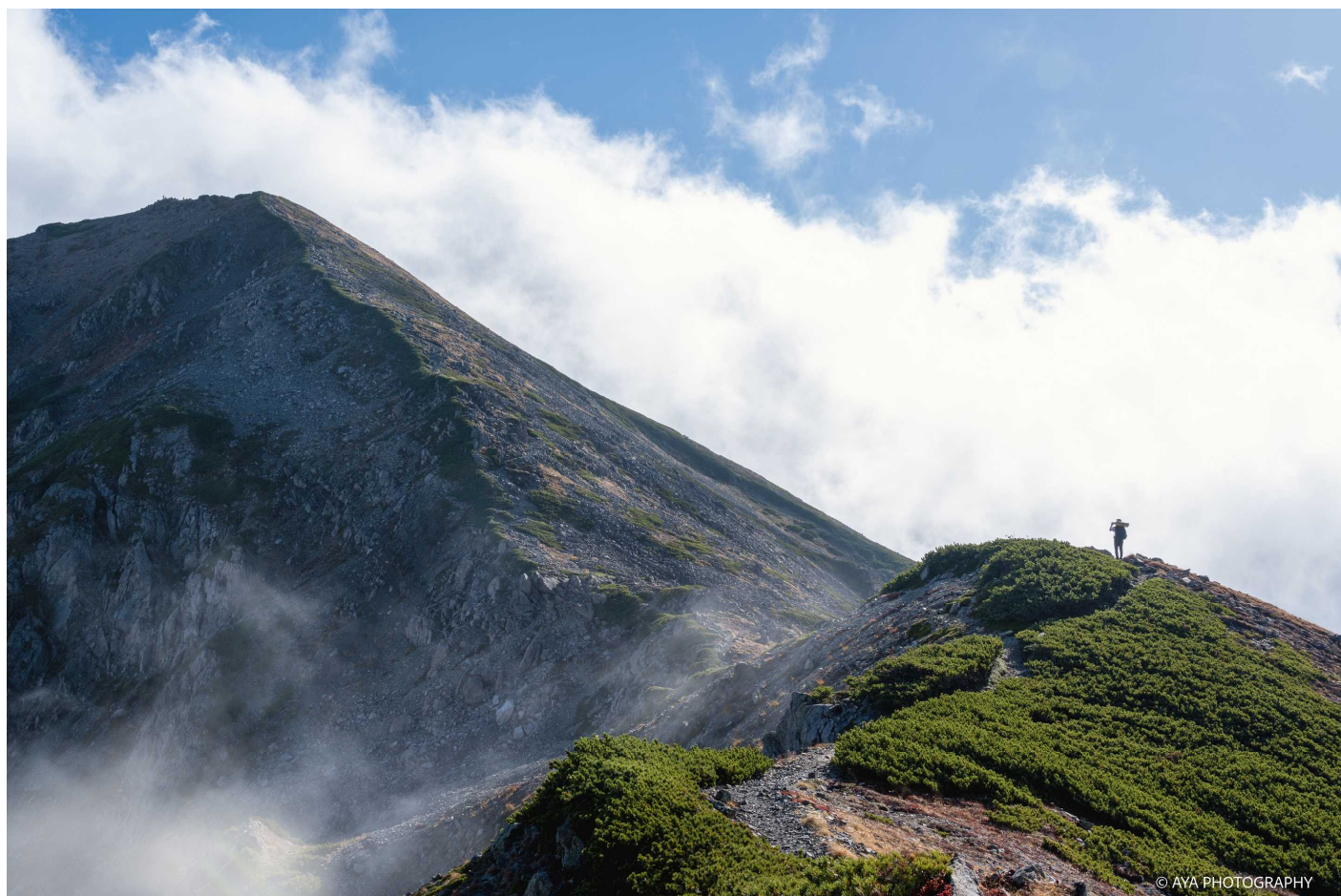
## ～ タカネマンテマ ～

南アルプス生息する貴重な動植物のうち、今回はタカネマンテマを紹介します。

タカネマンテマ	
種の解説	<p>多年草。高さ5～20 cm。茎は単一で直立し、軟毛が多い。葉は倒披針形で長さ3～10 cm、鋭頭で基部は細まりほぼ無柄。花期は7～8月。花は茎頂に1個つき、始めは斜め下向に開き、徐々に上を向き、真上を向いて枯れて立つ。萼筒は長楕円形、黒色の毛が生えた10脈が隆起する。花弁は長さ2～3 mm、淡紅色から白色。</p>
分布	<p>国外ではロシア(北クリール、カムチャツカ、シベリア)、ヨーロッパに、国内では本州中部(南アルプス)に、県内の個体が分布の南限に該当する。</p>
生育環境	<p>高山帯の岩塊上や岩礫地の疎草地に生育する。風衝地や日照時間の短い環境下で確認されることが比較的多い。</p>
生育状況	<p>かつては、南アルプスの数箇所で確認されたが、現在はそのうち一部限られた箇所でのみ生育する。総株数はきわめて少なく存続は危機的な状況である。</p>
減少の主要因と脅威	<p>産地はきわめて限定し、人の踏みつけや盗掘に加えて、シカの食害や踏み荒らしのほか、植生遷移や岩塊の崩壊も脅威である。</p>
保護対策	<p>「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。本県の個体は、ふじのくに地球環境史ミュージアム及び環境省新宿御苑内で種子が保存され、保護増殖が図られている。</p>

(静岡県版レッドデータブックより)

雲外蒼天の赤石岳



撮影者紹介

南アルプスを未来につなぐ会 理事

松嶋 彩

(@gakujo\_aya)

Instagramer



当会では、インスタグラマーとして活動する松嶋さんとコラボし、松嶋さんが撮影した南アルプスの美しい写真をPRイベント等の場で活用しています。

フォロワー14,000人超を誇る松嶋さんの珠玉の作品を皆様にもお届けします！

<松嶋さんのコメント>

秋の紅葉のシーズンに悪沢岳と赤石岳をカメラを担ぎ縦走に行きました。

雲の中の真っ白な世界から天気が回復し、堂々とした赤石岳が姿をあらわしました。

南アルプスの美しい景色をお届けします。



## 南アルプス環境保全基金

美しい南アルプスを未来につないでいくため、  
みなさまのご支援・ご協力をお願いします！

### 県外企業様はこちら 【企業向けふるさと納税】

- ①静岡県公式ホームページの  
サイト内検索で、  
「地方創生応援税制」と検索
- ②サイト内の寄附申出書を  
所定の提出先へ提出

こちらから  
簡単手続き！



### 県内企業様はこちら 【一般寄附】

自然保護課まで  
お問い合わせください。

### 個人の方はこちら 【ふるさと納税】

- ①インターネットサイト「ふるさとチョイス」の  
「自治体を探す」で静岡県を選択
- ②自治体一覧から静岡県庁ページを選択
- ③寄附金の使い道で「南アルプスユネスコ  
エコパークの保全管理と魅力発信等」を選択

こちらから  
簡単手続き！



方法は  
3つ！



## YouTubeやSNSで南アルプスの魅力を発信中！

### ○YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」



### ○県職員が撮影・編集「南アルプスを守るお話」(YouTube)



### ○南アルプスを未来につなぐ会 各種SNS

Instagram



Twitter



Facebook

